

蛭ヶ岳山荘通信 第69号 神ノ川ヒュッテ通信 第99号

合同会

発行日 平成 29 年 5 月 16 日
発行者 北丹沢山岳センター
事務局 神奈川県相模原市緑区小淵 1545-1
TEL042-687-4011 FAX042-687-3980

・蛭ヶ岳山荘よりの通信 目まぐるしく変わる春の雪・130cmの積雪1週間で0cm
丹沢山塊の最高峰「蛭ヶ岳」は、季節の変わり目が早足で通り過ぎてゆきます。3月は丹沢特有のドカ雪が積もり、1週間ほど過ぎるとあっという間にその大量の雪が消え、春山へと移っていきます。北丹沢に咲く東国ミツバツツジやシロヤシオツツジもまだ固いつぼみですが、気まぐれな花たちはいつ咲くことやら、気を揉んでいます。今年は4月3日の積雪が1m30cm、6日90cm、7日70cm、8日30cm、10日にはすっかり融けてしまいましたが、4月3日の大雪の中で登山客5名があわや遭難事故寸前の危機を体験しフェイスブックに綴った登山者の報告書抜粋を本人の承諾を得て以下に掲載させていただきます。

春山～雪の蛭ヶ岳への挑戦 遭難を覚悟した5名のパーティの手記から

この週末は丹沢の蛭ヶ岳登山、初級者3人ベテラン2人というパーティ。土曜朝8時前から青根林道より登山開始。スタートから粉雪がパラパラ。歩くのをやめると寒いので昼も軽食程度で早々に出発。先頭はウルトラランナー丹沢経験20回以上のRさん、次が経験ゼロのわたくしA、三番目がヒマラヤ出身Sさん、次がチベット民族大好きCさん、最後尾は山小屋で働いている全信頼を背負うMさん。この時13時頃、雪はやまず、腿の付け根辺りまでズボ、ズボ沈む。そうやって歩を進めて2時間くらい。突如、先頭のRさんが立ち止まる。「印が見つからない」え?! その一瞬で私の脳裏によぎったのはまさか、「遭難」?! 印のスズランテープは飛ばされたのか、見失ったのか。そこから数分道なのか、道じゃないのか定かでない雪道を歩き、不安で胸がはちきれそうだった。その時Sさんが10mほど先の印を発見。胸をなでおろした。粉雪はいつの間にか横風が吹いて小吹雪のようになっていた。でも、道は見つけて安堵し、命は心配無いと思った。それから看板が見えた。残り1キロ。時間はおそらく当初到着予定の16:30頃だった。手足は動き続けているのに先から感覚がなくなるような寒さだった。雪は降り続ける。残り0.7キロの看板。100mがなんでこんなにながなんだ…。みんな唸りながらもがいてももがいてもなかなか進まない雪沼をそれでも行かないわけにはいかない、という気概だけで進んでいた。残り400mだよ! Mさんが言った。でも、まだ、そんなにあるのか…。あたりはすっかり暗くなった。もう、目の前しか見えない。前が見えない。寒い。怖い。死ぬかも。死にたく無い。先頭でラッセルを1キロ前地点から続けていたMさんが今まで装着していたスノーシューズが外れている。板と靴の間に入り込んだ雪が固まって氷になり靴から外れてしまったそうだ。Mさんの体力的なものだけでなく、物理的にも限界がきていたようだ。もうだめなのか…? しばし、私たちは沈黙した。「誰か電話つながらないですか?」「だめ」「電波ない」「こっちもだめ」「携帯がみつからない…」私は最も山で繋がりにくいSoftbankだ。一応携帯をひらいてみた。するとなんと奇跡的に電波が入っていたのだ。蛭ヶ岳山荘へ助けをもとめ電話した。「あと100mのところなんです遭難しました! 助けて下さい! 道がわからないんです!」「わかりました! 今行きます!」助かった。助かったのか? わからない。私たちはとにかく再び動き出した。電話をしてから5分くらいたった。まだ、助けはこない。ライトも見えない。私は上着に付けていたインドで買ったコンパス温度計付きの笛をここぞとばかりに思い切りふいた。ピーーピーーイ。「おおおおい!」どこからか力強いオッチャンの声がする!「五人とも大丈夫かああ?」「だいじょうぶで一す!」この声で私たちは蘇生した。みんな最後の力を振り絞った後に出た搾りかすを更に絞って「生」へと進んだ。そして、遂に小屋にたどり着いた。全員無事だった。小屋の時計は19:30をまわっていた。朝8時から歩き始め、実に11時間以上の超難関雪山訓練になってしまった。人の息を、光を、火をこんなに愛おしく感じたことはなかった。そして、日頃「生きる意味がわからない」などと生への虚無感を持っていた私が、いざとなった時にここまで「生に執着」した自分自身に驚いた。私は全身で生きてきたのだった。死にたくなかった。再び生死を自分に問い直す時が来たのだと思った。これが、私が人生初死にかけた体験。こんなこと、2度と起こらないだろうし、そうであることを願う。しかし、同時に大きな自信や確信を得た、かけがえのない経験であった。そして、最も印象的であったのは、あの奇跡の電波。あの時以外、前にも後にも電波が舞い降りたことは一切なかった。目に見えぬ何か私たちに「まだ死ぬな」と手を差し伸べたんだ。

編集後記 北丹沢の春は5月半ば過ぎても芽吹きも始まらず、今年は特に異常な年と言えます。今回は丹沢の春雪の恐ろしさを山荘利用者の投稿から掲載させて戴きました。1m50cmも積もった雪があっという間に0cmとなり、驚きの限りです。蛭ヶ岳へはやはり諸条件からみても、丹沢山塊のチャンピオンである事は間違いありません。これからが青葉若葉の新緑のよい季節を迎えます。蛭ヶ岳山頂ではバイケイソウの草原で埋め尽くされます。是非蛭ヶ岳山荘へお出かけ下さい。また、蛭ヶ岳のふもと神ノ川ヒュッテでは自然豊かな環境で、美しい緑の木々に囲まれながらハイキング、キャンプや川遊びを楽しめます。皆様のお出でをお待ちしております。 杉本憲昭

4/13(木)蛭ヶ岳春の荷上げ、晴天にも拘らず蛭ヶ岳山頂は濃いガスに覆われヘリ運行できず 4/14(金)早朝に決行

例年蛭ヶ岳山荘への春の食物等を運ぶ荷上げは、春先の天候目まぐるしい中、予定される日程より待機になる事が多く、今年も4月11日が13日へ変更となり、最終的に14日ようやく完了しました。ヘリポートからの荷上げの人足や山荘での受け取りの人足の方々等、多くのボランティアの人々の手によって蛭ヶ岳への物資は運ばれています。



鐘撞山で遭難事故

3月17日に発生・家族が警察/消防へ届け出

男性1名が神ノ川林道から鐘撞山へハイキング中に行方不明となり、家族から「主人が帰ってこない」と警察・消防へ届出がありました。本人の車は折花橋近くの林道に置かれ、警察と消防は大室山周辺から神ノ川周辺まで捜索の範囲を広げましたが発見できませんでした。3月25日に家族から神ノ川ヒュッテを運営する杉本代表へ捜索の依頼があり、職員を急ぎ派遣し3月30日午前11時、捜索2日目に神ノ川林道折花橋近くの沢より遺体を発見しました。

神ノ川林道で土砂崩れ

4月10日18時に発生/神ノ川キャンプ場手前500m
4月15日に復旧・開通済み

ヤタ沢付近も土砂崩れ4月

林道の交通は
県の公衆トイレ迄
復旧開通済だが
注意して通行を
お願い致します。